

特集

カツカツ女子考〜貧困はあなたの責任なのか〜

竹信 三恵子



り
ぶ
る

さっ
ぽろ

2015 Vol. 40 秋

カツカツ女子考

「貧困はあなたの責任なのか」

平成27年6月20日に竹信三恵子さんをお招きし、「女性の貧困」をテーマに実施した

講演会&トークセッション「カツカツ女子考」ワタシたちがハッピーに暮らせる社会を考える」

その模様の一部をレポートします！

はじめに、女性の貧困は本当にあるのかという話をしたいと思います。こういう話をすると、「女性は貧困じゃない、貧困なのは男性だよ」と言われます。男性の意識の中では男性が女性を養うものだから女性が貧困なのではなくて、養う男性の貧困こそが問題だと思ってしまう。しかし、事実はそうではありません。

2012年の国立社会保障・人口問題研究所の調査を見ると、20〜64歳までの働ける年齢の単身女性の32%、3人に1人が貧困ライン[※]以下の収入しか得ていません。また、65歳以上の高齢の単身女性の47%、19歳以下の子どもがいるシングルマザーの48%が貧困ライン以下です。これら全てが単身であるというのがポイントです。日本の女性が一見豊かに見えるのは、男性の扶養に入っているからです。男性の扶養から外れて単身になってしまくと、途端に貧困になってしまふ。これが日本の女性の特徴で、非常に大きな問題点です。

1986年に男女雇用機会均等法が施行され、「平等になりたいのなら労働時間を男性と同じにすべき」と経済界を中心に強く意見が出され、女性の深夜労働などを禁止していた女性保護規定を撤廃しました。結果、女性も「家庭に専業主婦がいるような男性」と同じ労働時間で働かないと、正社員になってはいけない社会になりました。これが均等法がもたらした社会で、男女共通の超長時間労働社会になってしまったのです。

一方、ヨーロッパでは男女共通の労働時間規制を行いました。男性も女性も一定時間以上働いてはいけないという規制を非常に厳しくし、男性の労働時間は短くなりました。そうすると、女性

は男性と同じ労働時間の中で仕事の中身で競争できます。このように状況になれば、場合によっては女性が出世できるのです。

しかし日本では、男性も含め長時間労働社会のままです。その状況下では、子どもがいる女性が男性と勝負するのは難しいのです。それでもキャリアを築こうと思った女性は、子どもを生むのを先送りにしました。そうして1980年代後半から、猛烈な勢いで少子化が進んだのです。

そして、いざ子どもを生もうとすると仕事を辞めざるを得ないので、女性は20代後半から30代になると労働力率が下がります。2010年の調査では、子どもができると5割以上の女性が仕事を辞めています。その原因は、やはり長時間労働です。

女性がそんなに長時間働いたら、家事・育児・介護ができないから正社員を続けられないだろう、だから派遣社員を作ろうと労働者派遣法を作ってしまった。

派遣労働のシステムはもともと女性を想定した働き方なので、極端に不安定で低賃金です。でも、そのことが問題にならなかったのは、女性は男性が養ってくれているはずだから、急にクビになっただって、少し賃金が安くなったって問題ないだろうと錯覚したからです。女性には男性がいるはず、

男性はそれを養うはず、「はばかりの社会で、それに合わせて制度が設計されています。だから、非正規労働は極端な低賃金と不安定雇用になってしまいました。」

カツカツ女子



カツカツ女子とは

「収入が低い」「貯金がない」「仕事がない」などで毎月生活はカツカツ、でもギリギリのところで頑張っている女性たちをイメージした言葉です。





長時間労働の社会の中で、女性が出産をきっかけに正社員から非正規雇用に変わり、それが企業にとって便利だったため、子どもがいない女性も含めて非正規で雇えばいいという社会になってしまったのです。その結果、日本の女性の6割は非正規雇用で、子どもの有無にかかわらず非正規で働けと言われてしまうのです。

非正規労働のもうひとつの問題は、賃金格差です。正社員と同じ職務内容であっても、賃金が極端に低いのです。同じ職務内容でも長時間働けないという理由から、低賃金の非正規雇用にたくさんの女性が就いています。その

ことに文句を言おうとすると、男性に養ってもらっているからいいだろうと言われて、ちっとも改善されません。これが、今の社会の貧困の背景にあります。

今の日本で「カツカツ女子」に陥ってしまうのは、「カツカツ女子」の自己責任でなく、労働時間規制の緩和、均等待遇でない雇用制度など非常に大きな問題が原因となっているのです。

では、どうすればいいのでしょうか。社会学者であるシカゴ大学の山口一男さんは、女性が意思決定できる地位に就くようになれば、ジェンダー・エンパワーメント指数^{※1}が高くなり、時間当たり生産性が上がると述べています。子どもを持つ女性が職場で物事を決められる地位に就けば、職場が大きく変わってきます。今の問題点は、長時間働いた方が評価され、長時間働いても困らない人が部長や課長に就き、早く帰る工夫がちっとも進まないことです。女性が意思決定できる地位にたくさん就き、子どもを育てながら働く社会であれば、いろいろなことが変わっていくでしょう。

こうしたしくみに転換できないのは、職場において女性の管理職が少ないと同時に、政治において女性議員が少ないことも

要因です。日本の女性議員比率が2012年で11.3%なのに対し、世界の女性議員比率は20%を超えておりその差は歴然です。理由は、クオータ制^{※2}が日本では進んでいないからです。他の国々は、意思決定に人口の半分を占める女性の声を反映させようと、意図的に女性を増やすことを当然だと考えています。日本も議員の一定程度を女性にして、意思決定過程に女性の考えが反映されるようにしておかなければならないのです。

最後に、何が問題なのか一言で表すと、日本の「標準労働者像」です。現在の日本の「標準労働者像」は、家庭に妻がいて長時間働けて、会社が右へ行けと言ったら右にすぐ転勤できるような人を指します。この「標準労働者像」を変えましょう。

人間は、生活もあつて仕事もあつて、初めて一人前です。だから、人と付き合ひ、地域で活動し、家事をするための生活の時間と、仕事をしてお金を稼ぐ時間、これをきちんと両立できるように労働時間設計をする、それを「標準労働者像」としていかないと、女性は活躍できませんし貧困からも脱出できません。「標準労働者像」を変えて、それに合わせて働くルールを変えていく、見直していく、そういう運動を一緒にやっていきたいのです。これが「カツカツ女子」を何とか持ち上げていく唯一の方法である、というのが私の結論です。

※注1 貧困層の割合を把握するために使用される指標。

日本は所得または消費の分野で下位一定割合の水準を示す相対的貧困ラインを指し、2012年では貧困ラインは12.2万円。

※注2 女性の政治参加や経済界における活躍、意思決定に参加できるかどうかを表す指数。国会議員、専門職、技術職、管理職などにおける女性の割合と、男女の推定所得などを用いて算出する。

※注3 政治における男女平等を実現するために、議員、閣僚などの一定数を女性に割り当てる制度。北欧諸国などで法制化して実施されている。

ジャーナリスト・和光大学教授
竹信 三恵子 Miekko Takenobu

1976年、朝日新聞社に入社。編集委員兼論説委員(労働担当)などを経て2011年から和光大学現代人間学部教授。著書に「ルボ雇用劣化不況」(岩波新書、日本労働ベンクラブ賞)、「ルボ賃金差別」(ちくま新書)、「家事労働ハラスメント～生きづらさの根にあるもの」(岩波新書)など。近著に『ピケティ入門～「21世紀の資本」の読み方」(金曜日)など。貧困や雇用劣化、非正規労働者問題についての先駆的な報道活動に対し、2009年貧困ジャーナリズム大賞。



竹信三恵子 × リアルカツカツ女子

トークセッション

竹信さんの講演後に行われた、竹信さんと札幌のリアルなカツカツ女子とのトークセッションの様子をお伝えます！

下郷さん・・・25歳大学院1年生。男女4人でシェアハウスで生活している。

田中さん・・・31歳アパレル販売正社員。新卒で入った会社を9カ月で辞めたことが原因で再就職が難航。4年前から現職。



竹信：カツカツ女子について、おふたりは

何に問題を感じているのかお話ししていただきたいと思います。

下郷：私は親から、大学院に行くなら一切仕

送りしないから自分で行ってくれと言われて結婚しました。今の大学の学費免除や奨学金の制度は、親から一切仕送りを受けていなくても親の収入が基準となるので、学費は免除にならないし奨学金も借りなくてはなりません。だから、付き合っていた人も学生だったので結婚して世帯を構えてしまおうと思って。

生活保護を受けながら大学に通うことができないうえに、親から仕送りを受けていない単身の独立世帯だという証明をすることも非常に難しいのです。日本は家族主義が根強く、選挙権がある年齢になっても、自立した人間として大学に通うということすら許されていないような状況なのです。

竹信：日本の福祉社会では、子は親が扶養

することにしているのです。親がいる限り国は何もしてくれないのです。ヨーロッパの国々では、18歳を過ぎると学生用の住宅の手当があったりするのでも、日本は親元になくしては食べていけないから大人になれない。特に女性の場合は、親が男性が扶養してくれる人がいるはずだから、困ったら頼れというのが常識のようになっており、自立するしくみを利用することが大変難しいという典型例ですね。

田中：私の後輩の話です。夜仕事が終わって家に帰ったら、水道管が凍結し破裂して水が出ない。仕方なく夜中に

ミネラルウォーターのペットボトルで頭を洗って体を拭いて、翌朝出勤してきたと言うのです。彼女は自分が水抜きを怠ったから悪いと言うのですが、水道が凍結しやすい古い木造アパートに住んでいました。1年目だとボーナスも出ないし給料も安い。その中で仕事に使う洋服も買わなければいけない。必然的に安いアパートに住んでいるのですが、上司はそんな物件を借りたあなたが悪いと言う。それはおかしいなと思っていました。

竹信：長時間労働で生活するために必要な

時間が全然とれないうえに、1年目の給与が極端に安かったということですね。

田中：そんな状況なので、会社には実家暮

らしの人が残ります。アパレル業界はファッションに気を遣うと会社の評価が高くなるので、高い服を買える人が出世するのです。

竹信：すごい格差社会ですね。個人として

「生活するお金」と、「生活できる時間」を確保するという基本がいつの間にか抜け落ちていて、親の資産や夫の稼ぎなどの支援がある人間を働く人として想定しているという不思議な社会になっているのです。その中で、想定に合わない単身女子は、「カツカツ女子」となってしまうのです。

竹信：会場の皆さんからの感想を紹介しながら、女性の貧困とは何なのかを教えてくださいと思います。

僕は男性ですが、こちらとしても長時間労働が当たり前は本当に勘弁してほしい。男女にかかわらず、のびのび暮らしたい。



竹信：そうですね。男性への人権侵害です。男性が女性を養うのが当然というのは、高度成長期の考え方で、今はどんなに長く働いてもそれに見合ったお金をもらえない産業や会社はたくさんあります。産業構造は変わってしまっただから、男性ももう勘弁してほしいと思っています。

女性間の格差対立というものが出てきました。今の若い女性の中でも、働かず専業主婦になるのが幸せだと語る人が多く、働き続けることを否定されてしまう。意識を変えていくのにどんなことをすればいいのかとても悩みます。



竹信：まずは働き方をもっとよくすること。結婚して辞めたいのが当たり前だと思えば、長時間労働なのに、意識を変えろと言われても難しいですよ。でも、専業主婦になったらすごく幸せな人生が待っているのかというと、そんなでもないのです。産業の状況からいっ

て、若い男性は若い女性を養えなくなっています。貧乏でふたりであくせく働くだけという生活になれば、意識を変える以前の問題です。

竹信：おふたりは、4人でシェアハウスをしているようですが、それは貧困対策ですか。

下郷：貧困対策です。

竹信：シェアハウスというのは大阪や東京でも広がっています。貧乏な女の子が増えているということだから決していいとは言えないけれど、一方では対策を一生懸命考えて、自ら動き始めているということが言えます。横のつながりと、低賃金でも楽しく何とか生きていく、お互いに自分たちは間違っていないと言えるような居場所、住む場所をたくさん増やしていく。でも、お金がないからひとりでは暮らさないうで、仲間同士で一軒構えてしまおうという形です。それは札幌では簡単ですか。広がっていますか。

下郷：まだまだです。高いお金を払って入るおしゃれ系シェアハウスは出てきました。自分たち4人で住むようになったときは、物件探しにとても苦労しました。

竹信：ある自治体では、行政がたなぎ役となって、少子化や子どもが独立して空いてしまった部屋を若い人に貸す取り組みをしています。高齢者の家に若い人が住み、力仕事などのときに頼んでいいという約束になっています。その代わりに、家賃はすごく安いのです。場

合によっては自治体がそこに補助金を出しています。空き家対策であり、高齢者対策であり、かつ若者対策なのです。

札幌でも行政、支援者、当事者が連携しながら、いろいろな支援のしくみを考え実践していったって、拠点を作っていいわけではないでしょうか。



●最後に・・・

竹信：いい話ばかりではなかったかもしれないですが、まず現実をちゃんと見て、「女性の貧困はない」ということが「ない」こと、そして女性の貧困を作り出している構造のお話をしました。この状況を何とかするために必要なことは、一緒に何とかしようと言ってくれた仲間とか居場所なのだと思うのです。おふたりのように、そういうものを身の周りに作ってたくさん積み重ねていく、それが政策を変えていく力につながると思います。それは、若い貧困女子だけではなく、高齢者の貧困、社会的に立場が弱い人のところに行き寄せが行く貧困を押し返していく力になると思っています。

カツカツから抜け出すためには、
自分一人ではなく、

仲間を増やし 横のつながりを作って 新しい働き方を提唱すること、

世の中を変えるためには、選挙に行き投票率を
上げることで、カツカツな人たちの声を
無視できなくすることが大切だと思った。
安心して暮らせる世の中になればいいな。

(20代前半)



不要になった物(楽器、機材、服、本)などを
売る。部屋の整理にもなる。家計簿をつける、
お弁当を作る、コンビニに行かないなどを
して節約している。

(20代前半)

残業が続いて自分の時間がとれず、
家事も疎かになってしまって体力も
気力も余裕がなかった時期は辛かった。
時間もお金か、どちらかもう少し余裕が
欲しい…と思う日々。

(20代前半)

お金がないことがストレス
になる。食べたいものを
我慢したり、遊びに行きたい
のを我慢したりすることが辛い。

(20代前半)

手に残るのが1万円だった。

会社人をもっと自由にお金を使えと思っていた…。

(20代前半)

給料日後にお金を下ろし、家賃、家計費、
光熱費、奨学金などを支払ったら、

ガス代の請求が怖くて、
本当はお風呂が大好きなのに
湯船につかる日を少なくして
我慢している。

(30代前半)

札幌のリアルなカツカツ事情

講演会にお越しいただいた方などに
カツカツエピソードをお聞きました

今欲しい、必要と思っても
すぐに実現できないのが
辛い。現在は車を買って替え
たいのだが、現実…。

(30代前半)



大学の奨学金の返還をしていて、
この支払いがなければ
少し楽なのに…と思う。

(20代前半)

外食費削減のため、
お弁当を持って出かける。お弁当を
食べられるレジャースポットを探す
という新たな楽しみが増えた。
カツカツであっても
それなりに生活を
工夫して楽しめる
ということが分かった。

(20代後半)



食品を買うのは、1週間に1回と決め、
2,500円以内におさめるように
している(お弁当の材料も込みで)。
週末が近づくと

冷蔵庫が悲しい 感じになる。

(20代前半)



一人暮らしの物件探して、収入が少ないので
払える家賃の額が低く、狭くて
古い部屋ばかり紹介された。
希望していた1DK、
ベランダ付などは叶わず、
現実は1Kでベランダなしの
学生寮のような部屋だった。

(30代前半)



SOCIOLOGY

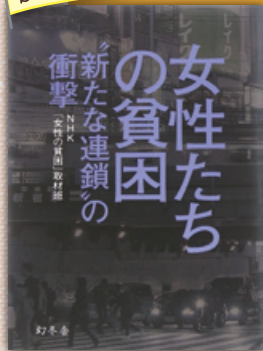
女性たちの貧困

「新たな連鎖」の衝撃

NHK「女性の貧困」取材班 著

1,400円(税別)／幻冬舎

NHKにて放送された、クローズアップ現代「あしたが見えない～深刻化する「若年女性」の貧困～」などの取材を書き集めた。「貧困」とは「お金がない」だけでなく「教育」や「情報」が欠如している状態だともいえるのではないかと一親の世代から子の世代へと貧困が引き継がれ、厳しい生活を送る若い女性の実態に迫る一冊です。



SOCIOLOGY

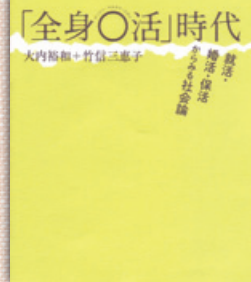
「全身〇活」時代

就活・婚活・保活からみる社会論

大内裕和 竹信三恵子 著

1,700円(税別)／青土社

仕事に就く、結婚する、保育所に預けることを望むとき、全身全霊をかけて取り組まなければならない現代。その原因や「世代間断層」が生み出すひずみをひも解いています。著しく困難な状況にある「〇活」の本質がわかる一冊。「〇活」に取り組む方はもちろん、「〇活」に取り組んでいる方の親世代にもおすすめです。



STORY

ワーカーズ・ダイジェスト

津村記久子 著

1,200円(税別)／集英社

32歳、欲望も希望も薄れつつあるけれど、普通に働いて普通に頑張って生きている……そんな男女それぞれの日常を描いた小説。仕事をしていれば辛いことや悲しいことがあるのは当たり前、でもそれでいいんだよ、と働く人を元気づけてくれて、読み終えた後「明日も頑張ろうかな」と少し前向きになれるような一冊です。



ESSAY

「貧困女子」時代を
かしく生きる
6つのレッスン

花輪陽子 著

952円(税別)／角川書店

「貧困の定義とは?」「貧困女子の実態とは?」「誰もががまらうる「貧困」について、楽しく学べるコミックエッセイです。貯金術や水道・光熱費節約ワザ、節約レシピにお金をかけない遊び方など、生活に役立つ情報も満載です。一人暮らしに不安がある人、お金の使い方を見直したい人におすすめの一冊です。



りぶるのススメ

このページではセンター職員がおすすめする本をご紹介します。

あなたのお気に入りになったら嬉しいです。

札幌エルプラザ情報センターを知っていますか?

札幌エルプラザ内にある「情報センター」では男女共同参画を含めた4分野の資料を閲覧したり借りたりすることができます(ご利用は無料です)。

🌙マークが付いているものは情報センターで借りることができますので、ぜひ遊びに来てくださいね。

情報センターへのお問い合わせは

011-728-1223

(開館時間 9:00~20:00)
(貸出時間 9:00~19:45)

札幌市男女共同参画センター相談窓口のご案内

札幌市男女共同参画センターでは相談窓口を開設しています。

相談料は無料です。各相談では専門の相談員がお話をお伺いし、秘密は固く守ります。

1人で悩まずに、新たな一歩を踏み出すきっかけとしてお話ししてみませんか。

	女性のための 総合相談	女性のための 仕事の悩み相談	女性のための 法律相談	男性のための 悩み相談
日 時	月○○○木○土 10:00～12:00 ○火○○○○○ 15:00～17:00 ※ただし第2火のみ 18:00～20:00	○○水○○○ 18:00～20:00 ○○○○金○ 15:00～17:00	○○○○金○ ※ただし第1・3・4 第3 金 13:00～15:00 第1・4 金 18:00～20:00	○○水○○○ 18:00～20:00 ○○○○土 13:00～15:00
相談員	カウンセラーなど(女性)	産業カウンセラー(女性)	弁護士(女性)	臨床心理士、産業カウンセラー(男性)
相談方法	面談/電話(728-1225)	面談/電話(728-1227)	面談	電話のみ(728-1331)
相談内容	家族のこと、夫婦のこと、恋愛、対人関係など女性の総合的な相談に相談員が面談または電話で対応します。	職場における対人関係、働き方、セクシュアル・ハラスメントなど、女性の仕事についての相談に産業カウンセラーが面談または電話で対応します。	離婚や相続など、法律的な見解が必要な女性の相談に弁護士が対応します。完全予約制なので事前にお電話でご予約下さい。 予約受付電話：728-1255	誰にも打ち明けられず、男性であるがゆえに抱え込んでしまう悩みを男性相談員が電話で対応します。



facebookへアクセス

<https://www.facebook.com/札幌市男女共同参画センター/377759212234904>



お問い合わせ

札幌市男女共同参画センター事業係
TEL: (011)728-1255 Mail: jigyou@danjyo.sl-plaza.jp

facebookで
情報発信しています!

札幌市男女共同参画センターでは、facebookで最新の事業の案内や、終了した事業の報告などを随時行っています。センターの講座情報などが知りたい方は、ぜひアクセスしてください。facebookにご登録がない方でもご覧いただけます。

編集後記

普通に暮らし、普通に働いている女性の貧困が深刻化しています。そしてこの状況は若年女性において決して少数派ではないことをお伝えしたくて、今回のテーマを「カツカツ女子考」としました。“自己責任”や“本人の努力”ではどうすることもできない貧困の構造。カツカツな人もそうでない人も、何が問題かを知り、誰もが暮らしやすくなる社会に向けて何をすればいいのか、考えるきっかけになればと思います。

発行月: 平成27年10月

発行: 札幌市男女共同参画センター

【指定管理者:公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会】

facebook: <http://www.facebook.com/pages/札幌市男女共同参画センター/377759212234904>

所在地: 〒060-0808

札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ内

電話: (011)728-1255 FAX: (011)728-1229

ホームページ: <http://www.danjyo.sl-plaza.jp>



本誌のタイトル「りぶる」は、英語(ripple)で「さざ波」という意味です。男女共同参画の意識がさざ波のように、少しずつ広がって欲しいという想いを込めました。